

防衛費過去最大6.8兆円

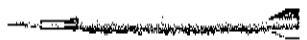
長射程弾量産 後年度負担 計10兆円

政府は二十三日午後、二〇二一年度の防衛費について、過去最大の六兆八千二百十九億円（米軍再編経費などを含む）と決めた。二二年度初の約五兆四千億円の一・二六倍。国家安全保障戦略に反撃能力（敵基地攻撃能力）を明記したことを踏まえ、長射程ミサイルの取得など関連費用に約一兆四十億円（契約ベース、以下同）を計上し、量産体制を整える。自衛隊艦船や施設整備の財源として、建設国債で四千三百四十二億円を確保。膨張予算に、軍拡競争への懸念は拭えない。

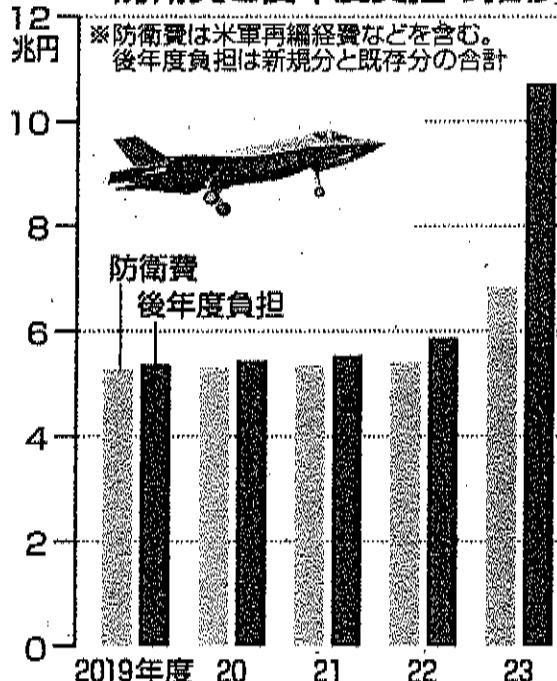
岸田文雄首相が掲げる抜本的な防衛力強化に向け、政府は今後五年間の防衛費を約四十三兆円と決定しており、二二年度は初年度に当たる。

一方、防衛装備品の費用を複数年度でローン払いする「後年度負担」は過去の残高を合わせて十兆七千百七十四億円に拡大。新規

分も七兆六千四十九億円に達した。いずれも過去最大。新規分だけで同じ年度の防衛費を上回るのは異例だ。

12式 地対艦誘導弾の 能力向上型 [射程を延ばす]		939億円(量産費)
島しょ防衛用 高速滑空弾の 能力向上型 [射程を延ばす]		2003億円(開発費)
米巡航ミサイル 「トマホーク」		2113億円
多用途・攻撃用無人機 小型攻撃用無人機		約100億円

防衛費と後年度負担の推移



の批判がある。

敵の射程圏外から攻撃できる「スタンダード・オフ・ミサイル」では、米国製巡航ミサイル「トマホーク」の取得費に一千百三十九億円を計上。二六年度の最新型配備を目指す。国産である12式地対艦誘導弾の能力向上型の開発費に三百三十八億円、量産費に九百三十九億

円を充てる。島しょ防衛用の新型ミサイル「高速滑空弾」の能力向上型の開発費や、音速の五倍以上で飛行し迎撃困難な極超音速ミサイルの研究費も盛り込んだ。

戦い方を一変させる「ゲームエンジャー」である無人機（ドローン）を多様化。攻撃型では情報収集機能を備えた大型機や、島しよ部侵攻に対処する小型機を取得し運用実証を行う。無人機に絡む経費は約一千億円。

自衛隊の戦闘継続能力（継戦能力）向上策として、弾薬の経費に八千一百八十三億円を計上。近年は二千億円前後で推移しており、四倍近い額となる。

防衛省は理由を巡り「装備品を早く部隊に送るため、可能な限り二二年度に契約する必要がある」と説明している。後年度負担では、予算の硬直化を招くと

は、防衛施設などを対象外としてきた経緯があり、從来方針の転換となる。なし崩しで借金拡大につながる恐れがある。

防衛費招く財政硬直化

予算案にしわ寄せ

政府の「10」年度予算案は、さまため財源をかき集めて防衛費の大額増額を優先させた結果、少子化対策など山積する課題への弾力的な資金配分が難しくなり、財政の硬直化が一段と進んだ。防衛増税の実施時期は見通せず、「巨額予備費の継続で財政規律の緩みも懸念される。「防衛元年」の財政運営は大きな転機を迎えた。

▽首相指示

「直面する歴史的な難局を乗り越え、未来を切り開くための予算だ」と、尾辻文雄首相は「十三日」の閣議決定に先立つ会合で強調した。五年後となる「一七年度の防衛関連予算を国内総生産(GDP)比2%に増やす

との首相の指示を受け、二千億円と前年度から約一千億円も増加。ほぼ横ばいだった公共事業費の約六兆一千億円を抜き、国債費と地方交付税交付金を除いた国の政策経費に充てる一般歳出で、社会保障費に次ぐ存在に躍り出た。

国的一般会計歳出の比較



高齢化による増加分が約六千億円加わった社会保障費と、防衛費を合わせると一般歳出の約六割を占める。他省庁の幹部は「当初予算で新たに回してもらえる財源はほとんどない」と割り切り、代わりに毎年の予算纏成で「追加歳出を押し込む」といった編成される補正予算で、過年度では一定の規律を保つたとも言える。

財源見通せず 規律緩む懸念

しかし複数年に亘る予算纏成の戦術を明かす。「とはいえ、防衛費増額のありで恒久的な支出に充てた当初予算の枠が狭まつたしわ寄せは、暮らじ闇連の予算に及んでいる。岸田政権が倍増を掲げる手にも予算は、政府の「全世代型社会保障」の報告書で新た

年間出生数が初めて八十万人を割り込む見通しとなる少子化対策は待ったなしの状況だが、来夏の骨太方針で示すとした道筋は不透明なままだ。

▽国債活用

「一三年度予算案は過去最高となる約六十九兆四千億円の収支を見込む」とから、新規国債発行額が約三十五兆六十億円と当初予算ベースで前年度を下回った。単年度では一定の規律を保つたとも言える。

しかし複数年に亘る予算纏成の姿は異なる。法人、所得、たばこ三税の防衛増税は、自民党内の対立を抱えたまま来年に実施時期の議論を持ち越した。萩生田光一政調会長は「税以外の財源の具体的なあり方についても既に検討を一層に議論する」と話してやつ、

な給付制度や児童手当の拡充を打ち出したが、裏付けとなる財源の議論は先送りになつた。

▽なし崩し

「一三年度予算案では、内閣が使い道を決められる予備費を「一一年度当初予算に統計五兆円積んだ。機動的にお金を使うメリットはあるが、国会審議や財政規律の軽視につながらとの批判は根強い。近年では、予算の「単年度主義」の例外として複数年度ごわたって支出できる基金も自立づけられ、「無駄遣いにつながる」(経済室幹部)と懸念する声もある。

首相の思惑通りに進むかどうかは波乱含みだ。毎年七千億円程度の活用を見込む決算剰余金も、景気減速で収支が下振れするリスクは拭えない。これまで認めてこなかった建設国債を国際施設の整備などに充てる」とが既に決まりており、財源確保が想定通りに進まなければ今後、国債活用論が勢いを増す可能性もある。



うかは波乱含みだ。毎年七千億円程度の活用を見込む決算剰余金も、景気減速で収支が下振れするリスクは拭えない。これまで認めてこなかった建設国債を国際施設の整備などに充てる」とが既に決まりしており、財源確保が想定通りに進まなければ今後、国債活用論が勢いを増す可能性もある。